

福島県環境影響評価審査会議事概要

1 日 時

平成26年5月30日（金） 午後1時30分開会 午後4時55分閉会

2 場 所

福島県庁本庁舎3階 総務委員会室

3 議 事

- (1) 板谷最終処分場6・7ブロック増設計画 環境影響評価準備書について
- (2) いわきエネルギーパーク新設計画に係る環境影響評価方法書について
- (3) 相馬中核工業団地（東地区）内共同自家発新設計画に係る環境影響評価方法書について
- (4) 福島復興大型石炭ガス化複合発電設備実証計画（広野）計画段階環境配慮書について
- (5) 福島復興大型石炭ガス化複合発電設備実証計画（勿来）計画段階環境配慮書について
- (6) その他

4 出席者等

- (1) 環境影響評価審査会 8名
- (2) 事務局 6名
- (3) 傍聴者 29名

5 議事内容

（「福島復興大型石炭ガス化複合発電設備実証計画（広野）計画段階環境配慮書について」及び「福島復興大型石炭ガス化複合発電設備実証計画（勿来）計画段階環境配慮書について」の部分のみ記載）

事業者が重複しているため、(4)、(5)について同時に審議した。

事務局から配慮書の手続概要について説明した後に、事業者から、同配慮書の概要についての説明、及び事前に審査会委員から収集した意見に対する回答概要についての説明がなされた後に、以下のとおり質疑応答がなされた。

なお、質疑応答後に、事務局から今後の手続について説明した。

【委員】

関西電力御坊発電所では、巣は遠くにあるハヤブサが、発電所内で土鳩を狩ってます。仙台市近郊でも2件ほど案件があり、1つは餌狩り場であり、もう1つは発電所内で繁殖してます。だからといって場所を変えたり、複数案を設定することはあり得ないのですが、希少種については、繁殖の妨げにならないように保全対策を考えなければならないと思います。鳥類については調査されるということなので、その結果、簡易な対策で対応できると思われれます。別会社の事例だが、仙台的旧施設についてはリプレイスを行ったが、

施設内の巣を改めて設置していました。

【委員】

石炭の焼却後に排出になるスラグは何処に搬出しますか。

【事業者】

現在は再利用をすることを考えてます。

【委員】

釜石の製鉄所の近くには、石炭とスラグがビニールシートに覆われて山になっていたが、東日本大震災の津波でもビクともしなかった。スラグを防潮堤用に使用できるのかもしれませんが。

【専門委員】

温室効果ガスの環境影響の回避であるが、I G C Cによる15%低減は理解できるが、もう少し低減できないだろうか。例えば燃料を天然ガスに替えるとか、C C Sを導入するとか検討できないだろうか。原発が止まっている現状からすると、現実性のある技術ではないかと思います。また、温排水についてですが、水生生物は陸上生物よりも温度の影響に敏感と言われている。温排水については基準がないが、準備書の中ではもう少し丁寧にとりまとめてください。

【事業者】

C C Sについては、これから先の未来の技術として有望ではないかと思われれます。革新的な技術であり、技術面での課題、貯留面での課題、経済性についての課題があります。これら課題については一事業者での対応は難しい。国の方でも対応を考えているとのことから、状況を確認しつつ対応していきたい。

温排水については、方法書、準備書と手続が進むにつれ、現地調査においてプランクトン等と一連の調査をした上で評価します。これまでのところ、福島県温排水調査管理委員会において20年以上調査を実施してますが、温排水の影響は確認されていないとの結果です。

【議長】

原子力発電所と火力発電所とでは温排水の出方が異なるとの説もある。温排水については今後も生態系の重要ポイントなので、温排水のとりまとめ方は丁寧にしていきたい。

【事業者】

温排水のエリアは常時動いており、配慮書に図示したエリアは平均化してシミュレートしたエリアです。

【委員】

広野と勿来とでは温排水の影響範囲が大きく異なるので、算出根拠を教えてください。また、温排水の変動状況は衛星画像のような物で示された

方が刻々の変化が分かり易いのではないのでしょうか。

【事業者】

人工衛星が2週間に1回通過するが、雲が掛かっていると測定不能。また、温度は相対温度で確認できるが、どこかに絶対温度ポイントが設定されていないと評価できません。

【委員】

温排水のエリア表示が、広野と勿来で異なるため同縮尺で表示等、比較が容易になるように工夫してください。

【事業者】

広野は5、6号機、勿来も前回の温排水に係る計算結果をベースにしているために、このような表示になりました。

【議長】

いわき海岸動物生息地には影響がない等と表記してはどうでしょうか。日本には発電所がたくさんあり、昔から調査されてきた訳ですから。

【事業者】

海岸部は潮の満ち引きがありますし、潮溜まりでは10℃ぐらい変動があるわけです。このことから、排出時は7℃ぐらい海水温より高いが急激に温度が下がりますして、生息地ではほとんど差がなくなります。

【議長】

その様なことを記載してはよろしいのではないか。干潟というのは、潮の満ち引きで10℃以上の温度変化があります。

【委員】

普通に石炭火力発電がぼんぼん設置されようとしてますが、全国的な傾向でしょうか。

以前、東日本大震災前にいわきに設置予定の火力発電所に対する時とは異なった対応のようだが、県としてはどのように考えていますか。現状で福島県だけが増えているのでしょうか。

【事務局】

本県以外についての資料は持ち合わせていないので、お答えできません。少なくとも、今回のIGCCの2件については、当県の知事は昨年、被災地域での雇用確保等の地域振興になると受け止めている旨発言してます。

【委員】

二酸化炭素の排出量については域内での換算になるとは限らないが、今後とも石炭火力発電を推進することとしてますか。

【事務局】

県としてのエネルギー政策は別にあって、発電者がどのような対応をとるのかについては、この場で発言するような資料は持ち合わせておりません。

【議長】

原発が稼働できない状況にあるために代替エネルギーの活用を重視する必要があるという感じでしょうか。他にある発電としては、今回の素晴らしいIGCC等の火力発電。また、浮体式洋上風力発電等の再生可能エネルギーによる発電。当面これらの両面等で対応するということですね。